



# 海の子

浜松市立舞阪小学校  
学校だより  
令和7年5月30日

## チャレンジでレベルアップした運動会

校長 古川 里江

本年度の児童会スローガンは『チャレンジでレベルアップ 目指せスーパーヒーロー』です。スローガンの名の下、全校が挑戦することを目指して5月24日(土)に運動会が開催されました。子供たちの競技に取り組む一生懸命な姿と保護者の皆様の温かな応援で、笑顔あふれる思い出に残る運動会となりました。

本年度は種目を一部変更し、1・2年生は徒競走と学年団種目、3～6年生は徒競走または障害走のどちらか一種目と学年ごとの僥倖種目に出場し、最後に全校で大玉転がしを行いました。1・2年生の『おどって入れろ！まいさかなっ子』では、音楽に合わせてにこにこ楽しそうに踊ることができました。後ろの応援席では高学年の子たちも一緒に楽しそうに踊っていて、見ているこちらにも笑顔になりました。3・4年生の『台風の日』は、数人で竹の棒を持って回ることも難しいですが、走り終わった後に棒をクラス全員の下に通してジャンプした後、全員の頭上を渡して先頭に持ってくるのがとても難しく、たくさんの練習を重ね本番ではどのクラスも素早くリレーができていました。5年生の『走って、助けて、綱引っばって！』は初めから綱を引くチームと、半周走って綱引きに加わるチームに分かれ、見ごたえのある綱引きとなりました。全力で勝負に取り組んだため、終わった後の嬉しそうな顔と悔しそうな顔が印象的でした。6年生の『因幡の白兎』は代表の口上から始まり、サメ役とウサギ役に分かれてサメの背中をウサギ役が往復で渡って速さを競いました。この日のために準備をしてきた6年生でしたが、はじめはうまく背中を渡すことができず、学級ごとに話し合ったり作戦を立てたり練習を重ねたりして当日はどちらの学級もスピード感にあふれ、あっという間に往復することができました。最後の勝鬨も素晴らしく、さすが最高学年だと感じました。最後の『みんなで大玉エッホッホ♪』は、全校が赤組と青組の二つに分かれ、全員で赤と青の大玉を転がして勝負しました。玉を転がす時以外は自分の組に大きな声で声援を送る姿が見られ、それぞれの組が一致団結した瞬間でした。

行事を成功させる要素は、「準備と練習」です。どの学年も練習を重ね、当日は練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい競技や発表ができました。特に5・6年生は運動会の運営について、朝や昼休みの時間を使って準備と練習に励んできました。開・閉会式の進行、誓いの言葉、児童代表の言葉、決勝審判、用具の準備、救護、放送などいずれも堂々と立派に役割を果たすことができました。今年は種目を変更したこともあり、事前の準備がとても大変でしたが、期待に応えてくれました。その姿は下級生にとって、高学年はまさに「スーパーヒーロー」だったと思います。

保護者の皆様には、御参観と温かな声援をありがとうございました。大変盛り上がった運動会となりました。また、朝と閉会式後にテントの準備や片づけをたくさんの方にお手伝いいただきまして、重ねて感謝申し上げます。運動会に向けて、毎日の声かけや励まし、体操服の洗濯に水筒の準備など御家庭の支えがあって、子供達も頑張れたのだと思います。今後どうぞ御支援をよろしく願いいたします。子供たちには、運動会を通して学んだことをこれからの学校生活に生かしていけるよう励ましていきたいと思ひます。

## <5月12日朝会 校長の話>

新しいクラスや友達に慣れてくるのはとてもいいことですが、緊張感がなくなって少しい加減な気持ちになってしまうことがあります。「これはがんばろう」「このことはやり続けよう」と決心したことが、時間が経つにつれてだんだんおろそかになってしまうことってありますよね。

昔、森信三という大学の先生が、「子供たちが立派に育つために、これをやり続ければ大丈夫」という方法を考えました。一つ目は、「あいさつ」、二つ目は「返事」、三つ目は「靴をそろえること」です。この三つはやろうと思えば、誰だってできることです。とても簡単なことに思えるけど、自分から進んで、誰にも注意されなくて、ずーっとやり続けることは、実は難しいんです。

誰でもできることを誰にもできないくらい続けてみませんか。